

8
月号

第343号

いっしん

平成25年(2013年)

ごみをかぶれ
ごみをこやしと
なすならば
未は花さき
実とも結ばむ
甘本親教会
初代親先生み歌

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 / FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://www.7a.biglobe.ne.jp/~konkokajiki



月迫 蘭 ちゃん・大山ことのちゃんが
開会前演奏に花をそえてくれました。



講師：原田幸次氏
(全国信徒会委員長・東小郡教会在籍教徒)

金光教鹿児島地方教会連合会 主催 教祖一三〇年記念研修会

加音ホールにて
開催されました。

梅雨も本番となってきた六月十六日(日)、始良市加治木町「加音ホール」(小ホール)において、金光教鹿児島地方教会連合会「教祖百三十年記念研修会」が開かれました。

記念研修会の開場は十二時三十分ではあるものの、準備に携わる三十名ほどのスタッフ(御用奉仕者の集合時間は午前九時でした)。

しかし、八時半頃から荷物の搬入が始められ、九時までには横断幕を上げることができました。

スタッフ集合時刻の十時に御祈念が始まり、連合会長(志布志教会長馬渡三郎先生)先唱による御祈念を頂き、挨拶などがありました。続いて、日程説明・諸注意などの後、各係に分かれて準備が行われました。

十一時半から受付が開始され、受付でプログラムや講師のプロフィールが掲載されたパンフレットや「金光新聞」「あいよかけよ」お茶などが全員に配布されました…。(次ページへ続く)

金光教鹿児島地方教会連合会 主催

教祖一三〇年記念研修会

今回の研修会が計画され始めた当初、連合会執行部で鹿児島市内の会場を三ヶ所ほどあたり、予約を取ろうとされました。しかし、どこも抽選をはずれ、結局適当な会場は、加治木町の加音ホールしかないということになりました。

そのため、地元の加治木教会の信奉者が中心となって準備や接待の御用に当たることになりました。加治木教会に対し神様が「ひとつ今度は加治木教会の信奉者で御用をおかけ頂いてくれ」という願いがあったのではないかと拝察されるのです。

加治木教会のバンド隊、少年少女会・青年会の皆も練習・御用に励ませていただき、信奉者一同で御用に当たらせていただくことができました。

*

…遠方から来場され、昼食のお弁当を頂かれるために和室を借り切り、女性の御用奉仕者によりお茶の準備なされました。和室は御用奉仕者の昼食・休憩の場所ともなりました。

活け花は
大重美知子さん

体験発表中の
柳美貴子さん



開場前のステージには、前日から婦人会の大重美知子さんが活けられた生花が運び込まれ、演台の脇に据えられました。

十一時半が開場時刻で、十二時十分開始の鹿児島地方教会連合会「ひとつとべ バンド」(加治木教会の少年少女会・青年会が中心として構成される十名ほどのプラスバンド隊)の開会前演奏がありました。元気良く「さんぽ」と「小さな世界」が演奏され、会場の空気が盛り上がってきました。

十二時三十分、開会行事が始まり、最初に、全国信徒会参与 串木野 教会在籍教師の満留敏弘先生の先唱

によりご祈念を頂き、続いて鹿児島地方教会連合会々長 馬渡三郎先生のご挨拶、金光教南九州教務センター次長の菊川信生先生より祝辞が述べられました。

十三時に研修会が始まり、最初に体験発表信徒体験発表として、鹿児島教会在籍の柳美貴子(やなぎ みきこ)さんのご発表を聞かせていただきました。

テーマは「二人して一つの道をひたぶるに」ということは、柳家のお義父様・お義母様が結婚に際し、鹿児島教会三代教会長行徳清人先生から贈られことばでした。

柳さんは、薩摩焼の窯元であるご主人の家に嫁がれ、結婚以来、ご夫婦そろって、薩摩焼のお仕事にたずさわっておられます。

体験発表では、柳さんご自身のご家庭をあげての信心の取り組みをはじめ、パリの展示会が実現していくまでの、いきさつや途中での出会いやエピソードなどが語られました。

体験発表後、柳さんのおかげを蒙られた、パリの展示会でのようすなどが、スクリーンに映し出され、柳

さんご本人が説明くださいました。
ご主人の、薩摩焼陶芸家、柳信一郎さんが、パワーポイントの映像を操作され、最後に皆さんにあいさつされました。

和室にお茶や御用奉仕者休憩の準備も調いました
受付の準備ができた来場者を迎えました



開会前の準備



開会式

開会式で教務センター次長菊川信生先生から祝辞が述べられました



連合会 馬渡三郎先生によるご挨拶がありました



受付の準備ができた来場者を迎えました

○ 講演に先立ち、原田幸次さんのお仕事などをご紹介する写真を、説明のナレーションを交えたパワーポイント映像にて、拝見させていただきました。

十三時四十分には、待ちに待った原田幸次さんの講演が始まりました。

さまざまなエピソードをまじえながらの貴重な講演でした。

質疑応答では、とても感銘を受けた旨の感想発表があり、「原田さんの仕事ぶりを、講演前にスクリーンに映し出された写真を拝見し、特別な方だと思いましたが、いろんな方に祈られ支えられておかげをこうむられてある方だということがしました」と言う感想が述べられました。

十五時三十分には、閉会行事が始まり、鹿児島地方教会連合会 信徒会長 入木田 覺さんのご挨拶、続いて、馬渡三郎先生指揮により「親神のよざしのままに」を全員で斉唱し、入木田 覺さんの先唱で、御祈念が仕えられ閉会しました。

そうして、金光教鹿児島地方教会



連合会主催「教祖百三十年記念研修会」の、すべてのプログラムが感激裡に終了しました。
この日、鹿児島地方教会連合会鹿児島県下より、信奉者のみならず、未信奉者を含め、百五十名の参加者がありました。

月迫 蘭 ちゃん、大山ことのちゃんが、ポンポンで演奏を盛り上げてくれました。

◆◆◆◆◆
《講話要旨》

「神人の道」を現わし、伝えよう。

—信心の継承を願って—

昨年、全国信徒会の先輩、沖秀広さんが九州の信心友たちから、手紙で「おかげを受ける信者は多いが、徳を頂く信者が少ない」という言葉に啓発されるころがありました。

また、沖さんをよく支えられた、故三宅博さん(御幸教会が以前に)とうしてそこまで力を尽くされるのですか」と尋ねると「徳は孤ならず、必ず隣(り)にあり」(論語中の言葉で「徳のある人には必ずそれを支える人が現れるものです」と説明され、そのとき「徳」というものの大切さを思い、その「徳」が、信心継承にも布教にもつながってくると思う。

今、全国信徒会の全体的な最重要課題は「信心の継承」であります。「信心の継承」ができていない問題は、高齢化により信心が途絶えているのではなく、私たちが「ありがたい」という思いを伝えようとする努力が足りないのではないかと思い、信心

の総点検と、真の信心への改まりが大切と思います。そのような気持ちで、教祖百三十年記念大祭に向かって、こちらの連合会から呼びかけられています「百日信行」に心を込めて取り組みたいと思っています。というお話に始まり、ご自身の信心のあゆみに添ってお話しをされました。



大正九年、祖母の入信で原田家の信心が始まる。昭和十四年に生まれる。
*

原田家は、小郡東教会の信徒総代を祖父の代からつとめ、何でもお取次ぎを頂いておかげを頂くとこの習慣であった。その信心の強い祖父母

のおかげで、信心の師匠、教友にも出逢うことができたと言える。

しかし、祖父が結核で急死し、中高生の頃以後は「神様はありやせん」、「信心は弱いものがするもの」と信心に反感を持つ。

上京して独りよがりな大学生生活を送る中で、東小郡教会の信心熱心な方や親先生に触れ、「この方の言われることなら」とお取次のままに進むことを決める。

二十二才で京都四条教会信者の履物商店に入社し三年間商売を見習う。京都四条教会親先生のご教導に感化を受け、朝参りや青年会活動に励む。帰郷後、見習った履物商店の三女と結婚。母と妹が受け継ぐ美容業関連の、貸衣装業を始める。

三人の男子を授かる。昭和五十七年、妻の大病を信心の試練と受け信心・御用に取り組む中で、「生きた神様」のお働きに触れる思いを体験。

その時期に、宇部市に進出した都市型ホテルに奇しくも入店することとなる。

「神様を使う信心」から「神様に使われて頂く信心」をめざし、神様の御用

としての「幸福産業」に取り組む。金光教式の会社祭を仕え、社員の幸せお客様の助かりを目指す。

昭和六十二年より全国信徒会の役を引き受ける。

先輩方の姿より、お道あつての私どもの教会であることを自覚し、御用をとおし徳積み信心・お礼の信心への展開をはかる。

現在フライダル業として七店舗を営む。三人の息子も教会に参拝、御大祭はじめそれぞれ教会御用に取り組む。

妻と息子の嫁たちがほんとうの親子のような関係で、大家族が家庭円満に信心・家業に励んでいます。

☆☆☆☆

講話のむすびで、

「商売の中でも、お道を伝えるという思いで取り組ませていただいている。《神様を飾りにしているだけではならない》(荒木美智雄氏の言葉)私どもはとかく、おかげを自当てに信心する、そのことは決して悪いことではないが、それではこのお道が縮小してしまう、それでは相済まない。道を伝えるエネルギーはどこか

ら生まれるのか、それは、神様のみに思いを迫る心が強いこと、その強さに比例する。」



*

「私は、三度ほど命を助けて頂いている、いいかげんな自分でありながらも、どうして神様はこんなにおかげを下されるのかと思うことがある、そのとき相済まない自分だなと思う。『神のおかけにめざめ』ということは、天地の恵みというおかげ・めづみというのと同時に、自分たちが今日まで頂いてきたおかげを通して、神様のみ思いに迫り、もったいない有難いという心を伝えず

おかないというエネルギーにして行かねばならないと思っております。」

*

「人間如何に生きるかということをごからいわれますが、神様のみ思いに迫って、それぞれの立場で、神様の喜ばれる御用として何ができるかである。」

*

『信心は心が神に向かうこと』と教えられています。神様に心が向いた途端、神様は光を与えられる、神様に心が向かいと次々に教え導いて下さる。それは後になってわからせてくださることが多い、やはり受け物が大切。絶えず宗教的感性である受け物を磨くということは、良き師、良き友、良き書物に出遭うことによつて磨かれていく《名師・良友に出会えぬは我が身の不徳》と言われると思いますが、信心していれば名師・良友に出会えるお徳を頂ける。そして神様のお働きを感じる事ができる。それは日々の信心の稽古にある。」

と熱を込めて述べられたことが印象的でした。

加治木教会 祈願祭 仕えられる

日中は三十度を超える「真夏日」のお恵みが続くようになった、七月二十一日(日)、加治木教会の祈願祭(御大祭)が仕えられました。

祈願祭は、明治三十九年九州開道の祖、小倉教会初代教会長 桂 松平先生が、御本部大教会所ご建築の御用材献納の願いを立てられ「飛ぶ鳥にも翼がなくては空を舞うことはできません、何卒福岡県下をはじめ、九州一円に農作物をはじめ、諸事繁盛のおかげをお授け下さい」との祈願を込められてお仕えになられ、



始められた御大祭です。
甘木親教会初代教会長 安武 松太郎先生も、
恩師 桂 松平先生の
大願成就を我が願いとして、
身を投げうち心血をそそがれ



ました。
さらに、矢野クラ
刀自は、恩師安武松
太郎親先生から
内々にその願いの
ご相談があり「数多
い信者の中には、相
当の裕福な方々も
多い。それに、私の
ような貧しい者に、
そのようなご相談
をしてくださると

は、何とありがたいことであ
うか。よし、どうでもこうでも御用
にお使いいただきこうこう決心され、
心を尽くして御用におかけを頂かれ
たそうです。

しかし、当時の矢野家は経済的に
裕福であったわけではありません。
田畑を手放し、屋敷と周囲の田畑
しかないような困窮に近い状態であ
ったそうです。

しかし、それでも、村中で最も貧
困の底にあった矢野の家が、限りな
き御神徳と安武恩師の御取次によっ
て、次第に向上の一途をたどらせて
いただいたことに思いを寄せら

れ「自分らのようなものをこのよう
な御用にお使いくださるか」という
有り難い勿体ない思いで御用におか
げを頂かれてあります。

「余裕ができるようになったら御
用をしよう、できるようにになったら
信心をしよう…」というようなこと
が、神様が感心してお受け取りにな
られる真心ではありません。

恩師 安武松太郎先生が、矢野クラ
刀自に伝えられた信心の最も大切な
ところに目を向けてみましょう。



祈願祭に引き
続き、梅木博光先
生(多良木教会
長・安武光太郎先
生(人吉教会)のお
二人で、新郎 有蘭
隆文さんと 新婦 矢野彰子さんの結
婚式を仕えていただきました。

ご祭主の梅木先生が祭詞を奏上さ
れた後、新郎新婦が「誓詞」(おまじり)を
奉読し「誓杯の儀」が仕えられ、有蘭
家のご両親にもご列席いただき玉串
を奉奠していただき、神様・霊様にこ
こまでの御礼を申し上げました。

七月十四日～三十日 夏季修行期間

ご祈念・研修は午前五時十五分・午前十時

七月十四日から三十日にかけて、夏季修行に取り組ませていただきました。



毎朝五時十五分から御祈念を仕え、『安武松太郎教話集 第三集』を拝読させていただきます。

研修は、十五分から二十分間で、教話集を皆で拝読して、御結界からのお話だけのこともあれば、御結界から質問を投げかけられることもあり、時には膝突合せて懇談形式も

ありました。

『安武松太郎教話集』を拝読させていただきましたと、志の高尚さ、親神様の御心のお汲み取りのなされ方の深さの違いがよくわかる気がします。

期間中、ほとんど皆勤の方もありました。これからも共々におかげを蒙らせていただきますよう。

あしあと

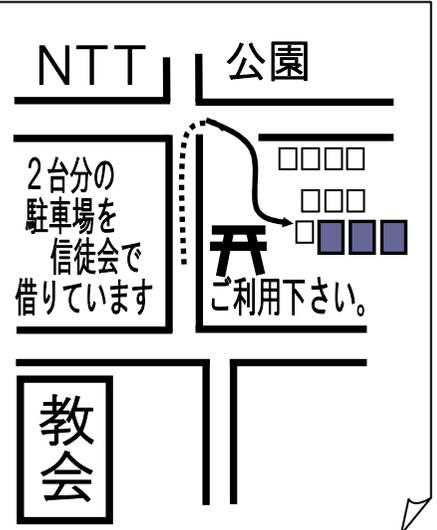
加治木教会行事記録

- 7月
- 1(月) 報徳月例祭 10時半
- 8(月)～10(水)
- 10(水) 大会実行委員会(教会長) 斎掃 御用 10時
- 12(金) 斎掃 御用 10時
- 13(土) 月例祭 10時半
- 16(火) 甘木親教会 教師研修会
- 17(水) 甘木親教会 祈願祭
- 20(土) 御用奉仕
- 21(日) 加治木教会祈願祭 11時
- 22(月) 月例祭 御祈念のみ 10時半
- 28(日) 朝参 拜日 6時
- 31(水) 斎掃 御用 10時

八月のご霊神様のおまじ

- 信國禮子之霊神 昭和20・08・03
- 中島シマ之霊神 昭和25・08・06
- 西本ハナ子之霊神 平成11・08・07
- 中村宗吉之霊神 大正11・08・10
- 大重 久之霊神 昭和41・08・18
- 星原孝彦之霊神 昭和55・08・22
- 星原阿称子之霊神 平成16・08・26
- 上田ハル之霊神 平成16・08・26
- 福元子ヨ之霊神 昭和28・08・28
- 小坂篤夫之霊神 昭和58・08・28
- 柳園ハナ之霊神 平成15・08・29
- 中村愛加之霊神 平成03・08・
- 檜原ヤオ之霊神 昭和40・08・30

立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。



八月三日(土)～四日(月)
少年少女全国大会 参拝

出発 三日 午前八時 帰着 五日 午後七時半頃
旅費 大人 二一〇〇〇円 中高生 一八〇〇〇円
小人 一四〇〇〇円 幼児 七〇〇〇円

八月三十一日(土)～九月一日(日)

十四時より 十一時まで
八月三十一日 午前九時 出発
甘木親教会

信徒研修の集い

九月十四日(土) 十一時より

矢野サタ子白萩大刀自

一年祭

ご祭主 甘木親教会
安武 道義 親先生

九月十六日(祝) 午前十時～午後三時半
鹿児島地方教会連合会 申込締切八月末日

第四回 信徒部研修会

場所：勤労者交流センター(ダイエー7F)
※昼食は各自持参

九月十五日(土)～十六日(日) 十四時より

南九州教区 合同開催

青年ふれあいフォーラム

九月十五日 午前十時 出発

場所：熊本県美里町(カーナラシ イス家族村)

教会行事

8月

1(木) ●月例祭(報徳) 10時半

3(土) 少年少女全国大会(出発)

4(日) 少年少女全国大会

5(月) 少年少女全国大会 帰着

9(金) 斎掃御用 10時

10(土) ●月例祭(生神金光) 併せて 10時半
19(月) 斎掃御用 10時

甘木 婦人教師会

21(水) 斎掃御用 10時

22(木) ●月例祭(天地堂) 共励会 13時半

24(土) (有馬家 結婚式・鹿児島市内)

25(日) ●朝参拝日 6時

26(月) 斎掃御用 10時

御本部会堂清掃奉仕(小島教会 関係教区)

28(水) 斎掃御用 10時

31(土) 斎掃御用 10時

《未定行事》青年会・若婦人会

※朝参拝日(第四日曜)

八月二十五日

家族そろっておかげを蒙らせて
いただきます。朝六時より

9月

1(日) 甘木親教会信徒研修の集い 第2日

●報徳月例祭 10時半

9(月) 斎掃御用 10時

10(火) ●月例祭(生神金光) 併せて 10時半

14(土) 矢野サタ子大刀自一年祭

15(日) 斎掃御用 10時

青年ふれあいフォーラム(4県教区 合同開催)

16(祝) (連)信徒部研修会(十時)

21(土) 斎掃御用 10時

22(日) ●月例祭・共励会 併せて

30(月) 斎掃御用 10時

十月五日(土)～六日(日)

教祖百三十年

御本部生神金光大神御大祭 参拝

大型貸切バスにて参拝の予定、旅費約二万円

加治木教会 バンド練習会

毎週金曜 午後7時より

来年十月二十六日(日)の、甘木親教会
布教百十年記念大祭バンド演奏に参加
させていただきます。今日信心のおかげを蒙
らせていただいている御礼を申させてい
ただきます。